

剣道部・剣友会年表

卒業年度	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主任	大会優勝	種目・成績	選手名	出奔事(剣道)	全日本選手権優勝者	出奔事(社会)						
S25 (1950)	【関連記事1】	<p>【関連記事2】</p> <p>戦争中軍国主義の強化に利用されたという、剣道の罪状を一応認め、しかも戦前の関係者の悪かった点に反省の意を表明し、「剣道は心を入れ替えて、新しい行き方をします」ということを明言しなければならなかった。それが剣道は体育スポーツとして出直すということであった。衝に当たって、折衝された方の苦心が偲ばれる。」(全剣連50年史より抜粋)</p> <p>【関連記事3】</p> <p>試合・審判規則が施行され大会が活発に行われるようになって、つぎの課題は戦前から存在していた称号・段位の扱い、また新たな制度をどのようにするかということであった。審議の結果、戦前の制度を引継ぎ、五段までの段位の上に錬士・教士・範士の称号を置くことにし、昭和二十八年三月に審査規定を施行しスタートした。そして昭和二十九年には全国で八千二百九名の初段合格者を出している。</p> <p>【関連記事4】</p> <p>昭和三十三年に至り、大きな制度の変革となる改定を行った。すなわち十段制の導入である。戦前の制度を復活して始められた称号・段位制度であるが、その後先行して占領中から始まった称号を廃止していった柔道の制度にならって、十段制を採用してはとの声が高まった。恐らく剣道、柔道が並立する、警察部内での処遇不均衡の問題が根源にあったろう。十段制といっても、剣道の場合称号をどう扱うか、大きな問題を投げ掛けるものであった。かなり伯仲した議論を重ねた上、称号・段位並存で十段制を取り入れることになり、昭和三十二年四月から実施するよう審査規則が改められた。この際、称号は「人格・技量・識見ともに備わり、斯道の普及発展に貢献したもの」に与え、段位は「剣道に関する総合的実力に応じて与えられるものと記された。そして称号は書類選考とし、段位は七段まで実技審査、八段以上を書類審査によることとなった。</p>	<p>【関連記事5】</p> <p>昭和三十一年に、全日本東西対抗剣道優勝大会の第十回を記念して、第一回女子剣道優勝大会を、わずか八人参加ではあったが開催した。その後参加剣士も増え、昭和四十六年大会から、全日本女子剣道選手権大会として行われるようになった。第二十六回大会に至って独立して行うことになる。</p> <p>【関連記事6】</p> <p>全剣連は昭和四十二年十月四日に、日本武道館において、各国を招いて国際親善剣道大会を開催した。ここに集まった十ヶ国、二団体の代表による協議の結果、国際剣道連盟の結成の方向が決まり、四十五年(一九七〇)日本で第一回世界剣道選手権大会を開催することになった。この機会に国際剣道連盟が結成され初代会長に全剣連木村会長が選出された。大会には十七団体が参加、東京、大阪で選手権大会を開催、国際普及の良い口火をきった。以後世界大会は三年ごとに、各大陸持ち回りで開催、海外諸国の剣道の普及と技術向上に大きな効果をあげている。</p>	<p>全日本剣道連盟発足</p>	<p>社会体育としての剣道に対する制限が解除され、高校以上の学校で剣道を体育として実施してよいと通達される。同時に全日本学生剣道連盟が結成される。</p>	<p>・日華平和条約調印 ・日印平和条約調印 ・アインシュタイン死亡</p>									
S26 (1951)	<p>全国組織結成の打ち合わせの場になったのが、日光東照宮である。東照宮は戦前から剣道に力を入れており、昭和四年の武徳殿竣工以来、毎年夏に奉納武道大会を開催してきた。占領期の中断を経て昭和二十六年八月から日光大会として復活させた。そして二十七年八月十八日に全国に呼び掛けて、剣道大会を開催することにしたが、この機会に集まった全国の剣道関係者による懇談会において、全国組織の呼び掛けが図られた。</p>						<p>第1回 榊原 正</p>	<p>・イギリス エベレスト初登頂</p>							
S27 (1952)	<p>こうしてすでにこの年五月に結成されていた東京都剣道連盟と三月に発足した大阪剣道連盟が、京都府、兵庫県と提携して結成された、近畿剣道連盟の両者が打ち合わせの中心となって調整案を作成、全国の剣道に呼び掛けることになった。そして東京都剣道連木村篤太郎会長と近畿剣道連盟大谷一雄会長代理の連名で、十月十三、四の両日、全国各連盟に全剣連結成のための会議の招集を行った。</p>								<p>第2回 小西 雄一郎</p>	<p>・ビキニ水爆被害事件(第5福丸丸)</p>					
S28 (1953)	<p>会議は東京原宿の東鉄職員会館で開かれ、昭和二十七年十月十四日全日本剣道連盟の結成が決議され、こうして戦後の新たな剣道の全国組織が誕生した。初代会長には木村篤太郎氏が就任、副会長は大空雄氏ほか三名、理事長新田宗雄氏、専務理事に庄子宗光氏、理事二名、事務局長渡辺敏雄氏などが選任された止。(全剣連50年史より抜粋)</p>										<p>第3回 中村 太郎</p>	<p>・国連加盟</p>			
S29 (1954)	<p>【関連記事3】</p> <p>試合・審判規則が施行され大会が活発に行われるようになって、つぎの課題は戦前から存在していた称号・段位の扱い、また新たな制度をどのようにするかということであった。審議の結果、戦前の制度を引継ぎ、五段までの段位の上に錬士・教士・範士の称号を置くことにし、昭和二十八年三月に審査規定を施行しスタートした。そして昭和二十九年には全国で八千二百九名の初段合格者を出している。</p>												<p>第4回 浅川 春男</p>	<p>・日ソ共同宣言調印(ソ連国交回復)</p>	
S30 (1955)	<p>【関連記事4】</p> <p>昭和三十三年に至り、大きな制度の変革となる改定を行った。すなわち十段制の導入である。戦前の制度を復活して始められた称号・段位制度であるが、その後先行して占領中から始まった称号を廃止していった柔道の制度にならって、十段制を採用してはとの声が高まった。恐らく剣道、柔道が並立する、警察部内での処遇不均衡の問題が根源にあったろう。十段制といっても、剣道の場合称号をどう扱うか、大きな問題を投げ掛けるものであった。かなり伯仲した議論を重ねた上、称号・段位並存で十段制を取り入れることになり、昭和三十二年四月から実施するよう審査規則が改められた。この際、称号は「人格・技量・識見ともに備わり、斯道の普及発展に貢献したもの」に与え、段位は「剣道に関する総合的実力に応じて与えられるものと記された。そして称号は書類選考とし、段位は七段まで実技審査、八段以上を書類審査によることとなった。</p>	<p>第5回 森田 信尊</p>	<p>・皇太子ご成婚</p>												
S31 (1956)	<p>【関連記事5】</p> <p>昭和三十一年に、全日本東西対抗剣道優勝大会の第十回を記念して、第一回女子剣道優勝大会を、わずか八人参加ではあったが開催した。その後参加剣士も増え、昭和四十六年大会から、全日本女子剣道選手権大会として行われるようになった。第二十六回大会に至って独立して行うことになる。</p>			<p>第6回 鈴木 守治</p>	<p>・原子力潜水艦ノーチラス号北極潜水横断に成功</p>										
S32 (1957)	<p>【関連記事6】</p> <p>全剣連は昭和四十二年十月四日に、日本武道館において、各国を招いて国際親善剣道大会を開催した。ここに集まった十ヶ国、二団体の代表による協議の結果、国際剣道連盟の結成の方向が決まり、四十五年(一九七〇)日本で第一回世界剣道選手権大会を開催することになった。この機会に国際剣道連盟が結成され初代会長に全剣連木村会長が選出された。大会には十七団体が参加、東京、大阪で選手権大会を開催、国際普及の良い口火をきった。以後世界大会は三年ごとに、各大陸持ち回りで開催、海外諸国の剣道の普及と技術向上に大きな効果をあげている。</p>					<p>第7回 中村 太郎</p>	<p>・ソ連 月の裏側撮影に成功</p>								
S33 (1958)	<p>この際、称号は「人格・技量・識見ともに備わり、斯道の普及発展に貢献したもの」に与え、段位は「剣道に関する総合的実力に応じて与えられるものと記された。そして称号は書類選考とし、段位は七段まで実技審査、八段以上を書類審査によることとなった。</p>							<p>第8回 桑原 哲明</p>	<p>・総理大臣 池田勇人</p>						
S34 (1959)										<p>第9回 伊保 清次</p>	<p>・ソ連 有人宇宙飛行に成功</p>				
S35 (1960)		<p>5月 全日本剣道連盟結成</p>	<p>・三河島駅二重衝突事故 ・ケネディー暗殺 ・新千代丸発行 ・東海道新幹線開通 ・東京オリンピック ・日韓国交回復</p>												
S36 (1961)	<p>戦後 剣道部を創設 川原道場で30名で始動 弘明寺の小学校へ防具を受け取りに行く。 選手権の練習。 関東甲信越大学体育大会参加。 黒澤学長決断で防具4組を購入していた。 横浜市中区立五大学剣道に加盟 神奈川五大学剣道に加盟 立大学との対抗戦を開催して勝利</p>			<p>3/10剣友の集い 1回生~18回生まで31名出席</p>	<p>美馬宗三</p>							<p>関東甲信越大学体育大会 全敗</p>	<p>第10回 戸田 忠男</p>	<p>・三河島駅二重衝突事故</p>	
S37 (1962)						<p>浦野卓人</p>	<p>第11回 矢野 太郎</p>								<p>・ケネディー暗殺 ・新千代丸発行 ・東海道新幹線開通 ・東京オリンピック ・日韓国交回復</p>
S38 (1963)								<p>福田正夫</p>	<p>第12回 戸田 忠男</p>						
S39 (1964)										<p>石野三正</p>	<p>第13回 西山 泰弘</p>				
S40 (1965)	<p>5年ぶりに剣友が集まる。2回生~20回生。25名参加 剣友会年1回の会合に(会費500円)</p>	<p>酒井 栄</p>	<p>第14回 千葉 仁</p>												
S41 (1966)	<p>剣友会発足 横山金一先生部長就任</p>			<p>田中正憲</p>	<p>第15回 堀田 国弘</p>							<p>・小笠原諸島返還 ・GNP世界2位 ・ミニスカート流行</p>			
S42 (1967)	<p>年間5回の大会に参加 (対市大定期戦・春季神奈川六大学新人戦・関東甲信越大会・対市大定期戦・秋季神奈川六大学対抗戦) また、年4回の合宿(5月 横浜市内の道場・夏季 長野方面での合宿・前期試験後の合宿・春 鎌倉霊雲寮) 春闘の開催も実施(富丘会報昭和42年より)</p>					<p>秋田龍正</p>	<p>10月4日 国際親善剣道大会開催(日本武道館、【関連記事6】参照) 11月 全日本女子学生剣道選手権大会開催</p>						<p>・小笠原諸島返還 ・GNP世界2位 ・ミニスカート流行</p>		
S43 (1968)	<p>5/25剣友会第二回会合(弘明寺体育館) 寄付金で学生に防具を寄贈。</p>							<p>中村順一</p>	<p>第16回 山崎 正平</p>					<p>・原子力潜水艦エンタープライズ入港</p>	
S44 (1969)										<p>北島長雄</p>	<p>第17回 千葉 仁</p>				<p>・人類初の月面着陸</p>

剣道部・剣友会年表

平成19年6月23日

年度	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主将	大会優勝	種目・成績	選手名	出来事(剣道)	全日本選手権優勝者	出来事(社会)
S45 (1970)				神奈川県七大学戦 神奈川県七大学戦	団体戦第五位 団体戦第四位		国際剣道連盟設立、第一回世界剣道選手権大会東京大会(団体)大阪大会(個人)が開催される。	第18回 中村 毅	・万博
S46 (1971)	四年生が夏休みまで現役を継続 剣道部の部員増加 女子部員11名に	5/22 弘明寺体育館 剣道部O・B会(毎年5月の土曜日に定着)。O・B対現役の試合を実施。 剣友会名簿完成	藤原成実	第22回関東甲信越大学体育大会 第22回関東甲信越大学体育大会	男子団体準優勝 女子団体優勝			第19回 川添 哲夫	・沖繩返還協定調印
S47 (1972)		6/10 OB会(弘明寺体育館)	佐伯 博	春季神奈川県七大学戦	男子団体第六位		2月15日 『全剣道広報』創刊	第20回 千葉 仁	・総理大臣:田中角栄 ・沖繩返還 ・日中国交回復 ・冬季オリンピック札幌大会
S48 (1973)	コーチとして片山5段、その後村山七段を迎える。	6/23 OB会(弘明寺体育館)	渋谷英樹	春季神奈川県七大学戦	男子団体第三位		第二回世界剣道選手権大会がアメリカ・ロスアンゼルスで開催される	第21回 山田 博徳	・エネルギー危機、TV放送短縮 ・ベトナム戦争終結 ・第一次オイルショック
S49 (1974)	神奈川県学生剣道大会が八大大学となり二部制となる。入れ替え戦で神奈川県大学と対戦も、敗れBリーグ止まり。		横本昌巳				3月2日 初代会長木村篤太郎辞任。前最高裁判所長石田和外選任 10月28日 財団法人全日本剣道連盟設立	第22回 横尾 英治	・エネルギー危機、TV放送短縮 ・ベトナム戦争終結
S50 (1975)	神奈川県学生剣道大会 防衛大学との入れ替え戦に勝利し、一級リーグ昇格		田島佳夫	神奈川県四府対抗	優勝選手	鹿間徳彦	『剣道の理念』(剣道修練の心構え)が制定される	第23回 川添 哲夫	・総理大臣:三木 沖繩海洋博
S51 (1976)		6/8 OB会 神奈川県大会の審判(天野先輩・緒方先輩2名) OBから部旗を寄贈する	南 圭一	神奈川県学生剣道大会	Bリーグ優勝		4月17・18日 第3回世界選手権大会(英国) 7月5日 財団法人全日本学校剣道連盟設立 12月6日 『幼少年剣道指導要領』承認	第24回 右田幸次郎	・モントリオールオリンピック ・ロッキード事件発生
S52 (1977)	常盤台に経済・経営・教育学部が移転。工学部が弘明寺のため土曜日のみの合同練習。部員82名。大学剣道関東大会で神奈川県大学で唯一 全日本学生への出場権を獲得。	6/4 常盤台キャンパスに道場が新設 初めて OB会を開催 剣友会から太鼓が寄贈される	浅野 宏	第25回全日本学生剣道優勝大会出場	男子団体	浅原・森田・菊池・榎野・広兼・松崎・田中・本名順・横口	4月22日 武道協議会発会式 9月11日 第1回全日本少年武道(剣道)練成大会開催	第25回 小川 功	・総理大臣:福田 ・200海里放航
S53 (1978)	関東甲信越大学体育大会を横浜で開催(剣道は市大主催)	6/24 OB会	福野幸一	第27回関東甲信越大学体育大会 神奈川県学生剣道大会	女子団体優勝 二部優勝		2月9日 国会議員による武道議員連盟結成 11月5~7日 第1回スポーツ少年団剣道交流大会 5月9日 石田和外会長急逝 6月19日	第26回 石橋 正久	・エボームラン世界記録 ・成田空港開港
S54 (1979)	部員59名(女子17名)	旧高専剣道大会 日本館業体育館 天野先輩出場 6/23 OB会	田中不二夫	第28回関東甲信越大学体育大会	女子個人準優勝	山下由紀恵		第27回 末野 栄二	・総理大臣:大平 ・東京サミット
S55 (1980)	神奈川県学生剣道大会 幹事校として開催 神奈川県 長洲知事から披露が厚く  全日本学生剣道選手権大会出場権獲得 (1回戦中継官2-3回戦 二回戦 防衛大学3-3(本戦敗戦) 三回戦 東京経済大学1-5回戦)	顧問監督就任  全日本学生への送迎費をOBに募る	横口芳隆	第25回春季神奈川県学生剣道選手権大会 第29回関東甲信越大学体育大会 第25回秋季神奈川県学生剣道大会 第28回全日本学生剣道優勝大会出場	個人優勝 個人戦準優勝 男子団体第二位 男子団体	森 信人 山本悦 田中・石川・小田嶋・山本・八木・福嶋・矢野・枝治・寺本	12月8日 科学委員会設置決定	第28回 戸山 光利	・総理大臣:鈴木 ・日中平和友好条約調印
S56 (1981)	公式戦には学生服着用	6/25 OB会 横山金一剣道部長 天野先輩への感謝状贈呈。新編体制へ 山口幹事長 天野副幹事長 石野・宮部総務 渋谷・広兼会計 藤原・種子島・南学生指導 田島裁判幹事 横口剣友会幹事	田中和美	第30回関東甲信越大学体育大会 第15回全日本女子学生剣道選手権大会出場 第27回春季神奈川県学生剣道大会 第30回全日本学生剣道優勝大会出場	個人優勝 女子個人 男子団体第二位 男子団体	枝迫大成 出沢尚子 福嶋・枝迫・岡本・寺本・中沢・小沢・横田・宣理・竹田・藤原	6月20日 創立30周年「三十年史」出版 7月31日 第5回世界剣道選手権大会(ブラジル) 8月8日	第29回 中田 瑋士	・国家公務員の週休2日制導入
S57 (1982)	第27回秋季神奈川県学生剣道大会で金銭 2部リーグ落ち		福島圭輔					第30回 右田 健一	・東北・上越新幹線開通
S58 (1983)			枝迫大成				6月23日 庄子宗光会長に就任、河合典晴名誉会長へ。 11月4日 次年度から剣道六段の地方審査会を増加することを決定	第31回 東 一良	・総理大臣:中曽根 ・東京ディズニーランド開園 ・金融機関第2土曜日休日
S59 (1984)			小沢勝也				全日本剣道選手権大会の出場資格を六段以上に制限、勝負に判定を取り入れる	第32回 原田 哲夫	・グリコ・森永事件発生 ・ロスアンゼルスオリンピック
S60 (1985)		6/29 OB会 OB会から防具置き棚を寄贈	竹田義郎	第30回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	小日山 明	日本剣道形審査上の着眼点を決定 4月13,14日 第6回世界剣道選手権大会(パリ) 6月26日 全剣道会長に大島功就任 『日本剣道形審査上の着眼点等を決定	第33回 石塚 美文	・つくば科学万博開催 ・日航機御巣鷹山墜落
S61 (1986)		6/6 OB会 剣友会創設二十周年 菅会長との20年の功績に感謝状を贈呈。学生へビデオ一式(大学卒70万・高専・高文卒30万円程度) 神奈川県大学剣道連盟 三十周年にあたり大会に際して横山金一剣道部長 天野八郎先輩に感謝状と記念品が贈られた。 石川監督就任	渡辺貞樹	第31回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人三位	今井浩	試合規則一部改定	第34回 岩堀 透	・チェルノブイリ原発事故
S62 (1987)			小日山 明				改訂『剣道試合・審判規則』を制定、全剣道広報の月刊化(後の『剣窓』)	第35回 西川 清紀	国鉄民営化
S63 (1988)		12/9 08時31分 菅委員会長 永眠	川村良児	第22回全日本女子学生剣道選手権大会出場 第33回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	女子個人 女子個人優勝	森嶋仁美 森嶋仁美	5月7日 六段審査より交付・審査を年齢別に2部に分けて行システムを採用。 5月28・29日 第7回世界剣道選手権大会(韓国)	第36回 林 朗	・総理大臣:竹下 ・ソウルオリンピック
H元 (1989)		6/17 OB会 大学会館での学生との交流会	大山武郎	第37回全日本学生剣道選手権大会出場	男子個人	山口敬介	『称号審査規定・段位審査規定』改訂、昇段のための修業期間が延長(2段へは1年に戻す)、七段審査の時間が1分から1分半に延長、全日本選手権出場枠を64名に増やす	第37回 西川 清紀	・昭和天皇崩御、平成に改元(1月7日) ・消費税導入(3%) ・総理大臣:宇野 ・総理大臣:海部 ・中国天安門事件

年度	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主幹	大会優勝	種目・成績	選手名	出来事(剣道)	全日本選手権優勝者	出来事(社会)
H2 (1990)		6/16 OB会 横山金一前部長へ記念品として手刺稽古着と袴を贈呈。	山口敬介	第38回全日本学生剣道優勝大会出場 第24回全日本女子学生剣道選手権大会出場	男子団体 女子個人	山口・木村・石野・松瀬・栗本・有竹・木・鹿木・植原 伊藤純子	6月19日 全日本剣道選手権大会の出場資格を五段以上に緩和 6月29-30日 第8回世界剣道選手権大会(カナダ)	第38回 宮崎 正裕	・ベルリンの壁崩壊、東西ドイツ統一
H3 (1991)		関東学生剣道連盟の選抜選手として有竹主幹が海外選征メンバーとなる	有竹 剛	第39回全日本学生剣道選手権大会出場	男子個人	高橋健太郎	【段位審査規定】改訂(八段の2次審査員14名、75歳以下の撤廃、形審査実施)、神奈川県代表宮崎正裕選手が全日本剣道選手権大会で大会史上初の2連覇達成	第39回 宮崎 正裕	・雲仙岳噴火 ・清津戦争勃発 ・ソ連崩壊
H4 (1992)		公式行事にはプレーザー着用	藤木賢二				5月3日 第40回京都大会を改め、第八十八回全日本剣道演武大会とした 5月17日 六段審査会名古屋で開催 12月23日 『全剣道四十年史』(剣道界と全剣連のあゆみ-この10年)を出版	第40回 石田 利也	・総理大臣:宮沢 ・ハルセロナオリンピック ・新幹線のぞみ、山形新幹線開通
H5 (1993)		6/19 OB会	横尾龍之				6月7日 大島功全剣連会長逝去 6月22日 京山二郎剣連会長に就任 11月1日 七段以上の高段者名簿初めて発行 11月3日 第41回全日本選手権大会、決勝は宮崎(神奈川)兄弟対決	第41回 宮崎 正裕	・総理大臣:細川 ・リーグ開幕 ・皇太子ご成婚
H6 (1994)		関東学生剣道連盟の選抜選手として高橋主幹が海外選征メンバーとなる	高橋健太郎	第39回秋季神奈川県学生剣道選手権大会 第43回関東甲信越大学体育大会	団体優勝 団体優勝	高橋・秋山・山田・田村・谷田・井上・大田・鹿田・加藤 高橋・秋山・山田・高砂・井上・菊池・大田・鹿田・加藤	剣道社会体育指導員認定制度が文部省に認可される 6月9-10日 第9回世界選手権大会(ノリ)	第42回 西川 清紀	・総理大臣:羽田 ・総理大臣:村山 ・アジア発の女性宇宙飛行士誕生
H7 (1995)		有竹監督就任	高砂 大	第40回秋季神奈川県学生剣道選手権大会 第43回全日本学生剣道優勝大会出場	準優勝 男子団体	菊池一紀 高砂・井上・菊池・大田・牧野・川崎・角澤山・安部		第43回 石田 利也	・阪神淡路大震災 ・地下鉄サリン事件
		剣道部創設以来の全日本学生2回戦連出 6/3 OB会 31名の卒業生が稽古に参加							
H8 (1996)		神奈川県学生剣道連盟幹事校	大田 剛					第44回 宮崎 正裕	・総理大臣:橋本龍太郎 ・アトランタオリンピック ・毒妻エピソード
H9 (1997)		E-MAILでの日報連絡をはじめ	角 憲太郎	第42回春季神奈川県学生剣道選手権大会 第42回春季神奈川県学生剣道選手権大会	個人準優勝 個人三位	角 憲太郎 榊山貴史	第十回世界剣道選手権大会が京都で開催される。 第三十六回全日本女子剣道選手権大会の優勝者(大塚真由美)に初の皇后杯が授与された。 9月27-30日	第45回 宮崎 文裕	・消費税5% ・香港中国へ変換
		関東学生剣道連盟の選抜選手として榊山主幹が海外選征メンバーとなる		6/28 OB会 34名の卒業生が稽古に参加					
H10 (1998)		関東学生剣道連盟の選抜選手として安部主幹が海外選征メンバーとなる	安部博文	第43回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	安部博文	11月2日 ・全剣連ホームページ発足 ・「竹刀及び剣道具規格」完成を得る	第46回 宮崎 正裕	・総理大臣:小淵恵彦 ・長野冬オリンピック ・山一證券破綻
H11 (1999)		関東甲信越国立大学剣道大会幹事校	喜納祐介				剣道称号・段位制度改定、剣道称号・段位審査規則および細則・実施要領決定(形審査不合格者の再審査制)、国士館大学にて剣道部員の傷害致死事件発生、剣道部解散	第47回 宮崎 正裕	・金融再編進行
H12 (2000)		剣道部ホームページ立ち上げ	川津大輔	第48回全日本学生剣道選手権大会出場 第45回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	男子個人 個人三位	川津大輔 中原貴之		第48回 栄花 直輝	・総理大臣:森 ・ドコモ・オリンピック ・有珠山噴火
		剣道場修復		OB会から川津主幹に袴を贈呈					
H13 (2001)		春季合宿開始	大塚 学	第46回春季神奈川県学生剣道選手権大会	女子団体三位	織田・日向・外島		第49回 岩佐 英範	・総理大臣:小泉純一郎 ・米国同時多発テロ
H14 (2002)		6/8 OB会 三十五周年を記念して弘明寺の横浜国立大学付属中学校体育館で開催	佐藤亨定				規則改定で八段一次の審査員を6名とし4名の同意で合格、六七段形審査を別立ての三審査員で実施	第50回 安藤 戒牛	・アフガン戦争 ・サッカーワールドカップ日韓共同開催
H15 (2003)		神奈川県学生剣道連盟幹事校	中原貴之				四段～七段、錬士、教士の審査員を6名とし4名の同意で合格とし、剣道称号・段位審査規則改定、『日本剣道形解説書』完成、解釈の統一実施	第51回 近本 巧	・イラク戦争勃発 ・SARS流行
H16 (2004)		6/28 OB会 約1年越しの編集作業を終え無事に記念誌が発刊された。年会費を頂いている先輩方全体に配布を実施。関係各所にも寄贈書として贈呈。	濱砂宏紀				・初段取得者数が、2年前に年間5万人台を回復。 ・26回連続した少年剣道教育奨励賞を贈呈 ・全日本剣道演武大会(明治99年)以来第100回を迎える ・全剣連ホームページのリニューアル成る	第52回 鈴木 剛	・新潟中越地震 ・スマトラ沖大地震、大津波 ・アテネオリンピック
H17 (2005)		香港国際招待試合にて剣友会チームが3位入賞(横山(H10)・中川(H11)・山田(H11)・大塚(H13))	藤山和夫	第50回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	米倉 文登	・剣道八段審査に過去最多の1300人を超える。合格者12名。7段審査は2581名と前年度越す。 ・5月団地で岡山県四郷目完全優勝。 ・8月31日愛知万博で剣道フェスティバルを開催。 ・東西対抗剣道大会を三十八年ぶりに鹿児島で開催。心技とも充実した試合に終結した。	第53回 原田 悟	・鳥インフルエンザ発生による鳥多量処分 ・建築耐震強度偽装事件発覚 ・オリンピックカード偽造事件 ・ネット詐欺巧妙化
H18 (2006)		6/24 OB会 大塚監督就任 秋田副会長が就任	齋藤 慶一				・平成18年3月31日時点での剣道有段者登録数は、1,429,718人(内、女子は401,121人) ・12月に第13回世界剣道選手権大会を台湾で開催。44カ国参加。女子個人、男子個人は、日本が連続優勝。男子団体戦、日本は、準決勝で米国に敗れ3位、韓国初優勝。	第54回 内村 良一	・小泉から安倍首相へ。違反議員戻る ・イチャイア-ワグ川静香トリプ五輪で金 ・VBCエシジャンが世界の頂点に ・姉齒 耐震強度偽装事件
H19 (2007)		6/23 剣友会創立40周年記念総会を開催 記念試合:横浜国立大学体育館アリーナ 参加者:約50名 記念総会:横浜中華街 ROSE HOTEL 鶴の間 (旧ホリデーイン) 参加者:約150名と盛大にとりおこなう。経済学部長 秋山太郎様 喜丘会副理事長太田様 北洋幹事長様が総会に出席された。功労表彰として感謝状を 横山金一先生 天野八郎名誉会長 渡部順先副会長に贈呈。7段に昇段された岩崎剣友 と全日本学生剣道選手権への出場を決めた米倉に袴を贈呈された。	成瀬 隆太	第53回関東学生剣道選手権大会 第55回全日本学生剣道選手権大会出場	ベスト32 男子個人	米倉 文登			

